

第 21 週

質問 54. 「キリストの聖なる公同の教会」について、あなたは何を信じていますか。

答え I 神の御子キリストが、⁰¹聖霊と御言葉により、⁰²世の初めから終わりで、⁰³全人類の中から、⁰⁴永遠の命を得るように、⁰⁵教会を選び、⁰⁶真の信仰の中で一つの共同体として集め、⁰⁷守り、保全なさることを信じます。⁰⁸そして、私も、その共同体に属しながら、いつまでも生きている会員 member として、残り続けるでしょう。⁰⁹

① 使徒信条では、三位の神について私は信じます believe in というとき、それは、三位の神との人格的な関係を意味します。しかし、使徒信条では、私が聖なる公同の教会を信じるとは言わないのです。聖なる宇宙的な教会があることを信じますと言います。教会は神の活動の特別な領域です。教会は、主の家

01 ヨハネ 10:11、使徒 20:28、エペソ 4:11-13、コロサイ 1:18.

02 ロマ 1:6、10:14-17、エペソ 5:26

03 イザヤ 59:21、1 コリント 11:26.

04 創 26:4、黙 5:9.

05 ロマ 8:29、エペソ 1:3-14.

06 使徒 2:42-47、エペソ 4:1-6.

07 詩 129:1-5、マタイ 16:18、ヨハネ 10:28-30.

08 1 ヨハネ 3:14、19-21.

09 詩 23:6、ヨハネ 10:27-28、1 コリント 1:4-9、1 ペテロ 1:3-5.

であり、主の民の集まりです。広い意味で教会は、キリスト教会全体を指しているのです。

キリスト教会という名は、キリストによって由来されました。神の選びを根拠にして会員がいて、永遠の命がその目的です。一つの共同体というのは、真の信仰と聖霊によって結ばれ、一つの体を構成しているからです(エペソ 4:3-6)。キリスト教において、真の信仰による連合は、使徒信条の中に表現されていることから発見することができます。

② キリストは救い主として教会の頭となります。キリストは、ご自身の民のために、ご自分を喜んで捧げられ、彼らを清めて聖なる者とします(エペソ 5:23-27)。従って、キリストだけが教会の頭となり(エペソ 1:20-23) 教会を主管なさり、支配なさります。キリストは選ばれた民を集め、連合させ、その交わりの中にいるようにされます。そして、その真の聖徒たちに影響を働かせます。頭が体の器官々を連合させ、体に影響を与えるのと同じ意味です。キリストが、このようになさることで教会を通してご自分の優れた栄光を現します。

しかし、今日の教会は、キリストを現そうとするより、人間の栄光を現そうとして、キリストに屈服されていないので、神の御名によって美化された人間の目的を成就させようと、人間的手段と方法によって教会成長を成そうとします。このような教会は、教会の目的から外れた教会であり、真の教会だと言えないのです。

③ 御使いたちは教会の会員ではありません。たとえ、キリストが天使たちをご自分に従わせたとしても(1ペテロ 3:22) 彼らは教会の会員ではないのです。彼らは、ただ、御言葉の働き人たちに仕えるものとして(黙 22:9)、救いの遺産を得る者たちのために働かれるに過ぎないのです(ヘブル 1:13)。遺棄された者たちも、また、外的に教会に属していると言っても、教会の真の会員ではありません。彼らは毒麦、結局、火に投げ込まれる(マタイ 13:30)、悪い魚として外に捨てられるでしょう(マタイ 13:48)。

遺棄された者たちは、自分たちが教会に属していると主張しても、彼らは教会に属している者ではありません（Iヨハネ2:19）。まるで、ユダヤ人が外的に割礼を受けたことを主張するけど、内面（心）では、割礼を受けていない者として、神に属していない者であるのと同様です（ロマ2:28-29）。従って、ただ選ばれた聖徒だけが教会の真の会員となります。彼らは、キリストにあって聖なる者となり、聖徒として召され、キリストに忠誠を尽くし、キリストと共にいる者たちです（黙17:14）。

④ 聖なる公同の教会、あるいは、教会と呼ばれる理由は、キリストにあって、聖霊によって洗いを受け、聖なる者とされたからです（Iコリント6:11）。教会は、世と分離され、神に捧げられています。そして、神の御心に従って聖なる生活によって区別されます。キリストはご自身を捧げられたことによって、私たちをすべての不法から贖い出し、特別な民として清められ、良いわざのために熱心な者とされました（テトス2:14）。教会は、宇宙的で **universal, catholic**。なぜなら、すべての時代、すべての場所、すべての聖徒たちを含めているからです。彼らは、みな、真の聖徒として恵みと特権の参与者です（エペソ4:4-6）。新約の教会は、ユダヤ人と異邦人、みな属しています（ヘブル12:22）。

⑤ 教会が構成されるのは、キリストが選んだ民を集め、彼らを保護し、保たせるからです。それで、キリストの真の民とは、真の信仰を持っています。彼らは、一つの心を持ち、真の教えを持っていて、それによって連合されています（エレミヤ32:39）。それゆえ、教会が連合されるのは、本質的であり、聖徒たちは真理と聖霊によって一つとなっているのです。キリストが、人類の中で選んだ者たちを集めるからです。

これは、三位の神の御心と救いの実現によることであり（ヨハネ17:6、黙9:13）、キリストの御名のためです（使徒15:14、ヨハネ10:16、11:52、黙5:9）。聖霊と御言葉によって選ばれた者たちを集める働きをなさいますが、キリストの働き人をこの世に送り、神の御言葉をを伝えさせ、教えることを通して御業を成します。

この時、選ばれた罪人たちは、御言葉と聖霊を通して、自分は罪人だという事実を悟って、神が用意された救いの手段であるキリストに出て来るようになるのです。

ところが、聖霊の御業は強力で、選ばれた罪人は、到底、抵抗できなくなり、降伏するしかないようになります（エペソ 1:18-20）。教会は、神の選びによってその会員となるので、生きているしるし等があります。その会員たちは、信仰によって生きて行き（マルコ 16:16）、聖なる生き方を追い求め（Ⅱテモテ 2:19）、聖霊の内的証拠などがあります（ロマ 8:16）。勿論彼らは、主の保護の下にいます（詩 139:1-4、黙 12:1-11）。従って聖徒たちは、キリストの羊の群れの中にいることを感謝しなければなりません（詩 23:5）。

⑥ 教会は目に見える可見的教会と、目に見えない非可見的教会と区別されます。このように区別するのは、教会の中に真の信者と偽り信者、あるいは、偽善者がいるからです。可見的教会の中には、偽善者と偽り信者がいます。もし、彼らが三位の神の御名によってバプテスマを受け、キリストに対する信仰告白があると言っても、真の救いの恵みはない者たちです。福音の働き人は、もし、真の信者と偽り信者とが完璧に区別できないと言っても、正しく区別しようとしなければなりません。それは、教会の聖別を維持させるためにです。

非可見的教会は、時代を超越して、神の真の信者によって構成されます。ところが、それは目に見えなく、ただ、終わりの日に完全に現れるでしょう。一方で、教会は、戦闘的教会と勝利の教会があります。戦闘的教会とは、キリストの旗の下で、この世と悪魔に対して戦う教会です（エペソ 6:10-12）。勝利の教会とは、すでに天上に上られ、復活を待っている教会を意味します（黙 7:9-17）。

⑦ 真の教会のしるし [marks](#) などがあります。神の御言葉を純粹に説教し、変質させないことです。そして、聖礼典を主が制定なさった通り、正しく実行することです。また、除名すべき者は正しく実施することです。

質問 55. 「聖徒の交わり」という意味は何ですか。

答え I 第一、すべての信者は、キリストの一部として、キリストにつき合わされ、その方のあらゆる富と賜物にあずかっています。⁰¹ 第二、各自は自分の賜物を他の方の益と救いのために、自発的に喜んで賜物を用いる義務があることを、必ず知らなければなりません。⁰²

① 聖徒は、教会の頭であるキリストとの交わりを持ちます。キリストと聖徒との関係を、建物と礎石（マタイ 16:18）、聖所（イザヤ 8:14、エペソ 3:17）、夫と妻（エペソ 5:23）、頭と体（コロサイ 1:18）と比喻しています。それぐらい、引き離そうとしても離せられない関係を意味します。聖徒がキリストとの結合の中にいるとは、キリストのすべての恩徳の中において、そのような恩徳を味わえるということです（Ⅱコリント 8:9）。聖徒は、キリストの豊かさの中にいます。そして、キリストの恵み等がありますが、罪の赦しと義、永遠の命です（エペソ 1:13、ヨハネ 1:16）。このようなキリストの恵みに、私たちが同参するということ（Ⅱコリント 8:9）。

② キリストとの、このような結合の中で聖徒は、ほかの聖徒との交わりを持つようになります。このような聖徒同士の交際は、何より親密な結合の中で行われ、彼らの心と霊魂は一つになります（使徒 4:32）。彼らはみな、同じ恵みを所有し（エレミヤ 32:39）、同じ愛を所有するようになります（ピリピ 2:2）。勿論、彼らは、同じ言葉を語り（Ⅰコリント 1:10）、同じ信仰を持ち、彼らの友も敵も互いに同じです。従って彼らは、まるで、ルツがナオミにくっついてしたように、互いにくっついていきます（ルツ 1:16）。彼らはみな、一つの町の市民であり、

01 ロマ 8:32；Ⅰコリント 6:17、12:4-7、12-13；Ⅰヨハネ 1:3。

02 ロマ 12:4-8；Ⅰコリント 12:20-27、13:1-7；ピリピ 2:4-8。

同じ家に住む者たちで（エペソ 2:19）同じ食卓で同じパンを食べます（I コリント 10:17）。一つの体に色々な器官が和解しているように互いに和睦します（エペソ 2:16）。

③ このような聖徒の交わりは、相互奉仕と仕えることによって美しく現れます。一つの器官がほかの器官を助けます（I コリント 12:14-17）。困難の中にあっても互いに助け、ほかの器官の益のために労苦することで、聖徒の交わりが現れます。各々聖徒は、神から受けた賜物、あるいは、贈り物などをほかの聖徒のために用いることです。贈り物は、この地において一時的な物（ロマ 12:1, 3、イザヤ 58:7、マタイ 25:35-36）と、霊的なものも含めます。慰めの言葉によって聖徒を助け、必要な品々を分け与え、共有することで聖徒の交わりが確かに示されたもします（ヘブル 13:13）。

このように、聖徒同士に必要なもので分かち合う時は進んで、そして喜びによってすべきです。いやいやながらではなく（II コリント 9:7）不純な動機からしてもなりません（マタイ 6:3）。それゆえ、喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい（ロマ 12:4-10, 13-15）。勿論、このような聖徒の交わりは個人的に、また、公的に行われていきます。このような聖徒の交わりによって重要な目標の中で一つは、ほかの器官の救いの益のためにするのです。これは、聖徒の交わりがどれだけ重要で、それゆえ、どれだけ注意を払わなければならないのかを見せてくださっています。聖徒の交わりには、必ず、キリストにあって、ほかの器官の信仰を立てるためにあるべきです。

④ 聖徒は、生きている器官としてのしるしがあります。その自身を、神の御言葉に従って見せられなければなりません。外的には告白があつて、内的には、聖霊によって目覚めていて、変えられた証拠があるべきです。また、その心は霊的で、聖なる熱望があつてこそ、聖徒同士の交わりが霊的なものになります。それを、生きている器官と呼べるのです。勿論、これは、各々器官がキリストに結合されているから、極めて当然なことです。それにもかかわらず、これら

がないなら、それはこの世の社交的な集まりに過ぎません。

⑤ 聖徒の交わりでは、誤った器官 **members** によって苦しみを受けられます。誤った器官のせいで、教会の姿が曲げられたり醜く見えたりもします。ユダヤ人は神の名を呼びながら、律法を持つことを誇り、律法に違反することによって神の名が異邦人の間で汚されました。このように間違った器官によって兄弟が苦しみを受ける時、それは、罪の誘惑として見ることができます。聖徒の交わりを困らせたり、平安を壊したり、敬虔を妨害したり、崩させる場合です（1コリント5章）。彼らは真理から離れ、教会を腐敗させるからです。

従って、真の教会のしるしが示されるために、教会に、懲戒と除名という恵みの手段が与えられました。教会が、世と同じようにならないための恵みの手段です。それゆえ、私たち自身が、教会の生きている器官として、その証拠が確かになるように、自己点検をし、霊的に踏ん張る必要が、必ずあります。

⑥ 教会の結合は、真の信仰による結合です（エペソ 4:4-6、ヨハネ 17:21）。教会の結合は、先ず、真理の中にいることと、救いが起こされることを前提にすべきです。真の信仰によって教会の結合があるからです。教会の結合は、キリストと聖霊の主権的な働きによって起こることです。教会の結合について、主が、私たちに命令なさっているのは、結合を維持 **maintain** しなさいということです。教会は、連合のために、必ず正しい教理を共有すべきです。

しかし、今日の教会は、結合という単語より、一致という単語を用いながら、主が、与えられた教会の結合に対する教えを無視しています。また、外形的一致を成すために教理まで放棄しています。神の主権を無視し、人間的な一致を成し遂げようとしています。これは、外的に結合されているように見えても、真の連合ではありません。

質問 56. 「罪の赦し」について、あなたは何を信じますか。

答え I 神が、キリストの贖いのゆえに、それ以上、私の罪を覚えようとはならず、⁰¹生涯私が戦わなければならない腐敗性、⁰²についても、罪に定めないことを信じます。それどころか、神の恵みによりキリストの義を私に着せてくださり（転嫁させ）、それによって私は、神の裁きの前でも、決して罪に定められません。⁰³

① 質問 56-58 番は、キリストの恩徳に関することとして、罪の赦しと体の復活、そして、永遠の命についてのことです。このようなキリストの恩徳は、信仰によってキリストに結合され、キリストの一部となれたことで味わえるのです。罪の赦しは、キリスト教会の生きている会員（聖徒）として受ける恩徳です。

罪とは、神の法を犯したことです（詩 51:4）。ほかの人に罪を犯した場合でも、神の法を破ったこととして、神に罪を犯したことです。従って、神に悔い改めをしなければならず、罪を赦してくださる方は、ただ神だからです。勿論、キリストも罪を赦してくださる権威と力を持っておられます（マル 2:10、イザ 43:25）。どのだれであっても、自分自身の罪と、ほかの人の罪を赦してあげられません。ただ神だけが、私たちの罪をお赦しになれます。神が、私たちの罪を赦してくださる根拠は、キリストの贖いの犠牲のゆえです。キリストの十字架での死は、私たちの罪を赦すためでした（ロマ 3:25、I ペテロ 2:24、エペソ 1:17）。

② 神が、聖徒の罪を赦してくださる時、今まで犯した実際的な罪は勿論、腐敗性までも赦してくださいます。私たちは新生しても腐敗性（罪性）は相変わ

01 詩 103:3-4, 10, ミカ 7:18-19、II コリント 5:18-21、1 ヨハネ 1:7, 2:2.

02 ロマ 7:21-25.

らず残っています。この腐敗性が私たちに神の律法を嫌い、それを破るようにさせ、この世に目を向けさせます。また、間違った悪い欲を続けて起こさせます（ヘブル 12:1）。それゆえ、真の聖徒は、必ず、自分の腐敗性と戦わなければなりません。このような腐敗性のためにパウロは嘆きました（ロマ 7:23:25）。しかし、キリストを通して腐敗性までも赦してくださる神に、感謝するしかありません（ガラテヤ 5:17、詩 103:3）。

③ 神が、罪を赦してくださるとは、ただ、罪とされる行いなどを、なかったことにしてくださる程度ではありません。神はそれらを記憶もせず、裁きもなさらないということです（エレミヤ 31:34、イザヤ 38:17、ミカ 7:19）。勿論、罪の効果と結果が、私たちに残っていることを許可なさるが、それは、罪に対する裁きというより、そのために、私たちがますますへりくだり、謙遜になるように、また、警告を与えるためです。

神は、私たちの罪を赦してくださるだけでなく、恵みによって私たちにキリストの義を着せてくださいます。まるで、私たちの汚れた罪の衣を脱がせ、キリストの義の衣を着せてくださるのと同じです。（ロマ 3:24、イザヤ 61:10）。それによって、神の赦しは完成されます。これの有益は、最後の審判の前で、私たちは、私たちの罪によって決して罪に定められることはありません（ヨハネ 5:24、ロマ 8:33-34）。

④ このような「罪のゆるし」について信じるというのは、ただ、罪の赦しに対する知識を持つ程度を意味するものではありません。先ず、自分の罪について徹底して悟らなければなりません。それは、神の御言葉と聖霊の御業によって可能なことです。最も、罪を悟った罪人は、切に、罪の赦しを探し求めなければなりません。

その過程の中で罪人は、罪を悔い改め、嘆き悲しむ心を持つだけでなく、その心の中は、すでに罪を憎む霊的性質が形成されます。自分の罪がどれほど大きいのかを徹底して体験し、山ほどの罪を赦してくださる神に悔い改めをし、

その神の御前に徹底して低くなるのです。なぜなら、自分は罪を自ら処理することもできなく、ただ神だけが赦してくださるのを、いやでも良く悟っているからです。

⑤ 神が、私たちの腐敗性までも赦してくださるとは、私たちが生活の中で、自分の腐敗性と戦わなければならないことを意味します。このような戦いがないければ、それは、真の赦しを受けた者としての生活ではありません。このような戦いは、悔い改めの真のしるしであり、赦しのゆえの、真の祈りのしるしでもあるからです（詩 32:2）。

今日人々は、悔い改めを簡単に考えながら、自分の罪と腐敗性について深刻性を全然、感じていない姿を見ます。まるで、カインが弟を殺し、神がそれについて聞かれた時、カインは、自分の罪について全然深刻性を感じなかったのと同じです。彼はそれから、神から裁きが宣言された以降にも、自分の罪に対して裁きが過酷すぎると不平を言いました（創 4:1-16）。このような態度は、自分の罪に対して軽く考えていることであり、神の赦しの真実性に無知だからです。真の悔い改めは、罪と戦い、罪を憎むこととして、その証拠が現れます。